

富士通 2007 年度第 1 四半期 連結および単独決算説明会

質疑応答メモ

日時 : 2007 年 7 月 26 日 (木) 17:30~18:40
場所 : 富士通汐留本社 24 階大会議室
説明者 : 代表取締役副社長 小倉 正道

質問者 A

- Q. 第 1 四半期の営業利益実績が期初計画の 0 億円を上回った理由を教えてください。
- A. テクノロジーソリューションが 20 億円前後、ユビキタスプロダクトソリューションで 20~30 億円上振れています。一方、デバイスソリューションは 20 億円下振れました。
- Q. LSI の第 1 四半期営業利益の実績、および通期の見通しを教えてください。
- A. 第 1 四半期実績は 100 億円近い赤字です。通期の見通しは、会計基準変更による 130 億円のプラス影響と、実質的なビジネスにおける 20 億円程度のマイナスを織り込んだ上で、二桁前半の黒字になると見込んでいます。
- Q. ユビキタスプロダクトソリューションにおいて、期初計画から通期で 50 億円上振れる見込みとのことですが、その内訳を教えてください。
- A. PC/携帯電話で 50 億円程度上振れを見込んでいます。HDD については期初計画から特に変更はありません。
- Q. 減価償却方法の変更影響は来期以降はどれくらいになるのでしょうか？
- A. 若干プラス影響が残ると見込んでいますが、正確には現在試算中です。

質問者 B

- Q. ソリューション/SI の第 1 四半期売上前年同期比が 20%増、ATM/POS の移管分 190 億円を差し引くと同 10%以上増ですが、この伸びをどう評価していますか。また、サービスの通期利益予想に変更がありませんが、下期にどのようなリスクを見ているのか教えてください。
- A. ソリューション/SI は業種別に見ると製造流通は堅調に推移しています、また金融のメガバンクや証券系の IT 投資、公共分野での民営化ビジネスが堅調に推移しています。サービスの通期利益予想に変更がないことについては、まだ第 1 四半期の段階なので、慎重に見ています。感覚的にはリスクは少ないと感じており、プラス要因の方が多いと思われませんが、もう少し見極めが必要です。
- Q. LSI の赤字ですが、足元の基盤製品と先端製品 (90nm/65nm) の状況、今期の見通しについて教えてください。
- A. LSI の今期赤字の主要因は先端製品です。先端製品は 90nm を中心に受注が増えてきており、90nm だけなら今年度中に利益計上が見込まれます。しかし、先端製品全体では、三重の 65nm 第 2 棟の償却負担が増えることもあり、引き続き利益見通しは厳しい状況です。基盤製品については需要が第 2 四半期以降回復してくることで、損益は改善していくと見えています。

Q. 最近報道のあった LSI の共同開発について、事実関係を教えてください。また、この共同開発はうまくいかないだろうとする向きもありますが、それに対するコメントもお聞かせください。

A. 報道内容については特にコメントはありません。ただ報道されている内容だけではうまくいかないと思います。単純にアライアンスをして、先端部分だけ共同開発し、その製造も一緒に行えば何とかなるかという、例えば本体にどの部分を残すのか、それぞれの企業が重複するビジネスをそのまま続けていくのか、様々な問題があります。ある程度ロードマップが見えてこない、うまくいかないと考えています。大事なのはビジネスストラクチャーです。それぞれ、自分たちで生きていくのか、共同でやっていくか、具体的なイメージを作り上げていく必要があります。

質問者 C

Q. サービスの国内売上、海外売上の伸び率をそれぞれ教えてください

A. 所在地別のサービスの第 1 四半期の売上伸長率は次のとおりです。

国内：6%、EMEA：21%、米州：6%、APAC：19%

Q. サービスセグメントの主要な海外子会社の第 1 四半期の売上／利益について前年同期比を含めて教えてください。

A. 英国の Fujitsu Services では、売上 580M£、営業利益 25M£ でした。

前年同期比で売上 30M£ 増ですが、営業利益は 3M£ の減益です。

地方公共団体向けを中心に全体の売上は伸びていますが、利益率の高い商談が一巡したこともあり、第 1 四半期は若干の減益となりました。年間ではアウトソーシングビジネスが順調で、利益予想は前年並みと見えています。

米国の Fujitsu Consulting では売上 176M\$、営業利益 4M\$ です。

前年同期比では売上は横ばい、利益は 3M\$ の減益です。

北米のビジネスが伸び悩んでいます。企業買収の効果についても、営業拠点を整理し体制を建て直して拡張強化を狙っていますが、まだ効果が出ていません。

Q. HDD、ロジック LSI それぞれの今年度後半へ向けての業績回復イメージとその理由について教えてください。

A. HDD は 80GB 2.5 インチについては価格競争が厳しいです。前年度は 30% 強の価格下落を起こしています。今四半期も 10% 近い価格下落が起きており、採算面で非常に厳しくなっておりますが、今後は価格下落は下げ止まりの様子を見せてきています。

一方、当社においては、120GB、160GB の垂直磁気記録方式の量産化について他社に先行しており、120GB モデルについては今年 8~9 月をメドに出荷を予定しています。第 3~4 四半期には出荷量も増える見えています。また、第 4 四半期には 160GB モデルの量産も開始出来ると見えています。HDD の収益回復のキーとなるのは 120GB モデルと考えており、年間出荷台数の約 7 割が垂直磁気記録方式を採用した HDD になります。

ロジック LSI は、第 1 四半期は AV/民生向けを含め全体的に所要は弱かったと思います。下期は AV/民生を中心に回復していくと見えています。携帯電話、産業機器、自動車向け等、アプリケーション別の全体バランスは良くなっていくと見えています。

質問者D

Q. テクノロジーソリューションで営業利益が期初計画より 20 億円上振れたとのことですが、そのうちシステムプラットフォームでの下振れはどれくらい含まれていますか？また、光伝送システムや携帯電話基地局に関する状況はどうですか？

A. システムプロダクトのサーバ系では、新規投入した SPARC Enterpriseなどを牽引役として、比較的堅調に推移しました。一方、ネットワークプロダクトは大きな課題となりました。

特に携帯電話基地局においては、06 年度下期からキャリアの設備投資が、当社の得意とする都市部向けから、当社の製品ラインアップがまだ揃っていない地方部向けへとシフトしたために苦戦しました。この点については、現在マルチバンド対応機種の開発を進めており、下期から出荷できる予定です。

光伝送システムは、日本については国内大手キャリアの光関連投資が若干弱含みでした。北米では当社がトップシェアを占めている S O N E T への投資が一巡し、WDMへシフトが進んでいるため、苦しい状況となりました。WDMへの投資は継続的に拡大するものと見ていますが、一方で S O N E T への投資も今後 4~5 年は年率 4%伸長が見込まれています。しかし、次世代ネットワーク製品の開発投資負担は厳しいものがあり、損益的には今期は厳しいと見ています。さらに、英国において FTEL が大型の NGN 関連プロジェクトを進めていますが、当社の開発のピークは 8 月になるものと見ています。大規模プロジェクトであるため、他のベンダーが担当している部分も含め、お客様がシステム全体の整合性をどう取っていけるかがポイントとなるものと見ています。

Q. 期初計画では、通期でシステムプロダクトが 150 億円の黒字、ネットワークプロダクトがブレイクイーブンですが、この計画は達成出来ると見ていますか？

A. ネットワーク系プロダクトは、第 4 四半期の回復を期待しております。

質問者E

Q. 国内のソリューションビジネスの状況について教えてください。

A. 国内 IT 市場の 07 年度成長率は前年比 103%程度と当初予測から見方は変わっていませんが、当社のソリューションビジネスの受注予測は 4 月時点の前年比 103%から今回 104%と若干上方修正しています。

業種別に見ると産業・流通分野では前年比 106%を今回 103%としています。産業分野での商談の延伸などがあった為です。

テレコム分野は前回前年比 103%を今回 104%と若干上方修正しています。ビジネス NGN、光関連は好調に推移しています。

金融分野は、前回前年比 105%を今回 106%とこれも若干上方修正をしています。メガバンクや証券各社の投資拡大が牽引します。

公共分野は、前回前年比 110%を今回 112%と見ています。官庁分野は IT 予算が削減されているものの、民営化ビジネスや市町村の業務改革の一環で共同アウトソーシング等のプラス要因がでてきています。

地域分野は、前回前年比 104%を今回 103%と若干弱めの見方をしています。医療/介護関連ビジネスは好調ですが、地方の民需の回復感が今一つです。

Q. 携帯電話機の在庫が積み上がっているという話がありますが、どうですか。

A. 当社については特にそういう傾向はありません。

Q. PC の今後の見通しについて教えてください。

A. VISTA 関連の状況はあまり芳しくありません。法人向けの需要がまだ広がっていない状況です。当社は VISTA パソコンの業務における使い勝手について、お客様のご支援をしたいと考えています。個人ユースについては、手堅く広がりつつあります。

Q. LSI の稼働率、BB レシオについて教えてください。

A. 足元では先端製品ラインはフル稼働に近い状態です。基盤は7割台ですが、第2四半期は受注を勘案すると8割を超えてくると思います。BB レシオは1.2を超えていますが、本格的な回復は下期になります。

以 上